

淑女検定

☑ チャレンジテーマ

日本画

日本が世界に誇る伝統絵画、日本画。誰もが知る芸術でありながら、実際に描いたことがある人はあまりいない。淡く繊細な独特の世界観は、どのように描かれているのだろう。日本画の世界をのぞいてみた。

問題 1 日本画は岩絵の具を「にかわ(膠)」で溶いて描く。にかわは何でできている？

- A. 松ヤニ B. 蜂蜜 C. 木の皮 D. 動物の皮



問題 2 日本画において「白」はとても重要な役割を果たすが、胡粉(ごふん)の白色を準備する過程で必要なことは？

- A. 酒かすを混ぜる B. 雪を混ぜる
C. 白玉団子状にする D. 米粒状にする

問題 3 本来は描き直しに不向きな画材だが、もし描き直したい時はどうする？

- A. ぬるま湯で洗い流す B. 上から和紙を貼る
C. 白く塗りつぶす D. 絵が消える粉がある



SBS学苑
パルシェ校

今月の
先生



【楽しく描こう日本画講座】講師

森谷 明子 もりや あきこ

日本画家

一人一人の個性を尊重しながらそれぞれに合った表現方法を探求。初心者の方はまずは色紙サイズから

SBS学苑パルシェ校
INFORMATION

2/4(日) 10:30~12:00

やる気を引き出す感動の話し
心に響く「ベップトーク」

講師/岩崎 由純

受講料/3,240円 管理運営費/108円

教育やビジネスに活用できる心に響く励まし
の話しについて学べます。

【お問い合わせ・お申し込み】
Tel.054-253-1221

正解 & 解説

問題 1 → 正解 D

にかわは動物の皮や骨などを煮詰め、固めて乾かしたものです。石や貝を砕いた顔料である岩絵の具は、さらさらした砂状。砂粒を塗り重ねて描くが、単体ではサラサラして描けないのでにかわを接着剤として使う。生ものなので、油絵や水彩画の画材のようにチューブで保存ができない。その都度絵皿に溶いて作るが、夏は1~2日で腐り、冬はすぐに固まる。同じ原料でも砂粒の大きさで色合いが何段階にも変わる。

問題 2 → 正解 C

カキやハマグリ貝殻の内側を砕いて作る白色の絵の具「胡粉」。日本の風景を描くには欠かせない色彩で、ふわっとした霧やかすみなどを表現する「日本画で最も美しい色」(森谷先生)だという。色を作るのにとっても手間が掛かるのも特徴。まず胡粉になかわを加え、白玉団子状に練る。それを100回ほど乳鉢や絵皿に叩きつけて「手打ち」し、さらに水を混ぜ指で溶く。支度に30分はかかるという。

問題 3 → 正解 A

日本画は砂粒になかわで固めて接着しているため、ぬるま湯で洗い流すことができる。和紙は麻でできていて、手で簡単にちぎれないほど丈夫なので、ぬれても問題ない。洗って砂に戻った顔料は、乾かして再び使われる。自然の風景が描かれることが多い日本画。若葉、草、うぐいすといった色の名前からも自然を感じる。「岩絵の具は自然のものから色をいただいています。命や自然に対する畏敬の念を作品から感じてほしい」と森谷先生。